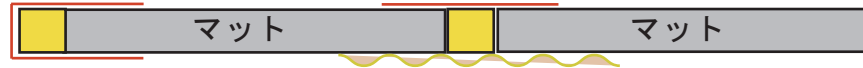


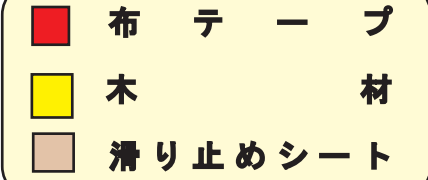
立面図

布テープでマットとマットを固定する。



マットが動かないように、小さな木材の下に滑り止めを敷く。

長い木材を包むようにマットの上下に布テープで固定する。



二人 1 組で体験を行う。

すべての組の片方の子だけが車いすに乗った後に、もう片方の子が乗る。どの子が乗るのか先生に指示を出してもらえるとスムーズに進む。

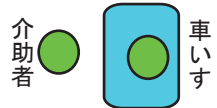
木材は持参しますが、布テープは学校で準備してください。

出発地点へ戻ったら、車いすをマットの方に向けて停める。

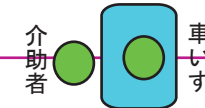
この図では、往路と復路が別の場所を通っているが、同じ場所を往復すれば、少ないスペースで車いす体験が行える。
ただし、1 通路に対して、1 台の車いすしか使えない。

マットとマットの間の隙間は約 10 センチ。
これは踏み切りを想定した体験です。

カラーコーン（パイロン）などの目印を回る。
車いすの台数が多く、カラーコーン同士の間隔が狭い場合などは、体育館のカラーテープを利用する方が良い。



小さな角材はマット間の距離を一定にするもので、この木材に乗らないようにする



車いす・介助者のペア
往路は自力走行

往路は自走中心で行い、介助の不要・必要を体感させる。（介助者は見守り）

復路は車いすの解除体験のために、全介助。

1 組のマットに対して、車いすが複数台の場合、先行する車いすがマットの隙間を超えたことを確認してから、後発の車いすが出発する。

マットによっては柔らかすぎて、段差の体験ができないため、長い木材を使って同じ条件を作り出します。
段差を上るか所に長い木材を設置します。

平面図